

自立活動教諭の専門性（3）

—自立活動における指導者の専門性とは—

企画者	今野邦彦	（藤女子大学人間生活学部）
	古川章子	（北海道大学大学院教育学院）
司会者	今野邦彦	（藤女子大学人間生活学部）
話題提供者	佐々木高一	（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）
	古川章子	（北海道手稲養護学校）
指定討論者	長沼俊夫	（日本体育大学体育学部）

KEY WORDS: 自立活動の指導、自立活動教諭、内部の専門家

【企画趣旨】

企画者らは2018年の第56回大会において、自主シンポジウム「自立活動教諭の専門性—内部の専門家としての意識に着目して—」を企画し、特別支援学校の自立活動において全国的に展開されている外部専門家の活用とは異なる「内部の専門家」としての自立活動教諭の導入・実践・専門性について討論を行った。これに続き翌年の2019年の第57回大会では、自主シンポジウム「自立活動教諭の専門性（2）—内部の専門家に求められる機能とは—」を企画し、児童生徒・保護者・家族・教職員・教育委員会・地域・他校・関係機関、そして外部専門家から求められる機能とは何か、そして、これらの機能を発揮するための自立活動教諭の専門性について討論を行った。

一木（2020）は、調査研究の結果から、自立活動の指導の質を担保するには、担任の成長を支える自立活動専任の配置が不可欠であり、専任自身の成長のプロセスを保障するための計画的な後任の育成は各校における自立活動の実践の質を左右するとし、自立活動では、なぜその指導目標・内容を設定したのか、実態把握から指導目標・内容の設定に至るプロセスについて教師間で共通理解することが何より肝要となると述べている。そして、自立活動専任がどのように関与すると自立活動の指導における教師の成長を支えることができるのか、この視点から各校の個別の指導計画作成のシステムを見直すことが重要なのではないだろうかと言っている。自立活動専任は、教師の成長にどのように関与しているのか、また、どのような関与が求められているのか、自立活動教諭の専門性の追求の糸口となる視点である。

古川（2020）は、『自立活動教諭は、理学療法士や作業療法士等の専門職のアプローチとは全く違う「自立活動の指導」の専門性が必要であり、理学療法士や作業療法士等の専門職が、単に内部（学校）に常勤し専門職のアプローチのみをしている「内部にいる専門家」ではなく、「自立活動の指導の専門的な知識や技能を有する教師」である。その専門性の構造や性質の違いを明確にするために「内部専門家」に「の」を加え、自立活動教諭は学校内に常駐する専門職である「内部の専門家」である』と強調している。「内部の専門家」である「自立活動教諭」と「自立活動専任」は、立ち位置の背景に違いがあるが、求められる役割や機能にはどのような相違があるであろうか。

これらの視点を踏まえて、本シンポジウムでは、「自立活動における指導者の専門性について」をサブテーマとし、話題提供者には自立活動の指導者にはどのような経験が必要なのか、若手教員にどのような指導を行う必要があるのか、教師の成長を支える担い手となる自立活動における指導者について話題提供をしていただく。指定討論者には、自立活動における指導者に言及していただき、内部の専門家である自

立活動教諭の専門性の追求にむけ、討論を重ねたいと考える。

本シンポジウムは、自主シンポジウムの前半となる話題提供及び指定討論の一部をオンデマンドで事前配信し、大会期間中のリアルタイムライブ配信にて、テーマに迫る討論を重ねたい。リモートの利点を生かし、参加者との活発な意見交換がなされることを期待する。

【話題提供の趣旨】

佐々木氏が所属する筑波大学附属桐が丘特別支援学校では、その役割と使命から、自立活動の指導の在り方と指導方法についての先導的な発信をおこなっている。また、全国の教師が自立活動を学べる場である「自立活動実践セミナー」も継続して開催している。それら長年の実践研究が培われてきた自立活動の指導方法等を踏まえて、自立活動の指導の在り方や考える視点、指導者に必要な資質とは何かを話題提供していただく。加えて、自立活動専任として若手教師に自立活動の指導の教授を先導してきた佐々木氏の経験と知見から、自立活動における指導者の専門性についても話題提供していただく。

古川氏には、特別支援教育の特に肢体不自由教育の歴史的な背景と自立活動の指導の変遷を踏まえて、自立活動の指導を行う上で、若手教師に必要な自立活動の指導の考え方、また、他校の自立活動の指導相談や教育センター主催の自立活動の指導講座の講師の経験と知見、北海道の第1号の自立活動教諭として内部の専門家として担ってきた役割から、自立活動における指導者の専門性について話題提供していただく。

【指定討論の趣旨】

本自主シンポジウムの1回目から継続して指定討論者を務めていただいている長沼氏には、「自立活動教諭の専門性」の追求に向けて、特別支援教育の変遷の背景や障害の捉え方の変化による自立活動の変遷の道標から、自立活動における指導者に向けた提言をいただく。加えて、幅広い見地から、今後の課題や展望の示唆をいただく。

【文献】

- 1) 一木薫（2020）：重度・重複障害教育におけるカリキュラム評価—自立活動の課題とカリキュラム・マネジメント。慶應義塾大学出版，pp133-136.
- 2) 古川章子（2020）：北海道の自立活動教諭導入の背景とその専門性—北海道の肢体不自由児の療育と教育の変遷から—。北海道大学大学院教育学研究院紀要第137号，pp145-169.

(KONNO Kunihiro, FURUKAWA Akiko, SASAKI Kouichi, NAGANUMA Toshio)